



岡山県倉敷市 倉敷美観地区

倉敷美観地区は、JR倉敷駅を中心とする中心市街地内にありながら、江戸時代に商家町として繁栄したことを物語る数々の町屋や蔵が、良好に保存されている地区です。ここでは、戦前から伝統的な町並み保存の必要性が先覚者により唱えられ、戦後の町並み保存活動へと受け継がれていきました。

こうした活動を受け、昭和43年に独自条例を制定し、行政による町並み保存がはじまりました。その後、重要伝統的建造物群保存地区の指定や都市計画法による美観地区（現

在は景観法による景観地区）の指定、建築基準法の一部緩和など各種制度を活用しながら、伝統的な町並みの保存に取り組んでいます。

また、近年には、夜間景観照明事業や電線類地中化などの景観整備が進められるとともに、中心市街地活性化事業を活用した空き家再生による商業施設がオープンするなど、本市を代表する観光地としてさらなる発展を遂げています。

倉敷館（観光案内所）

大正6年に町役場として建てられた洋風の木造建築物です。役所機能の移転により倉庫などに転用された後、荒廃が進んでいましたが、市民からの保存を望む声により、数回にわたる改修を経て、令和2年に今の姿となりました。現在は観光案内所として多くの方々に利用されています。



水島コンビナートの夜景

瀬戸内海に面する全国有数の規模の重化学コンビナートであり、本市の経済の中核をなす存在として人々の生活を支えています。

鷲羽山スカイラインの展望台からは美しく輝くコンビナートを見下ろすことができ、国内でも有名な夜景スポットとして「夜景100選」に選定されています。



下津井町並み保存地区

下津井は、瀬戸内海に面する古い港町で、江戸時代の始めには備前藩の海の守りとして背後の山に下津井城が築かれました。今でも石垣等が残っており、岡山県指定史跡となっています。

下津井が港町として栄えたのは江戸時代中期以降からで、昭和61年に岡山県の町並み保存地区に指定されました。

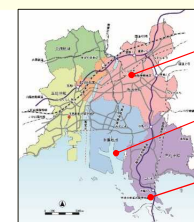


瀬戸内海の多島美と瀬戸大橋

日本初の国立公園である瀬戸内海国立公園。その代表的な景勝地である鷲羽山からの眺望は、「天下の絶景」と評され、瀬戸内の多島美を一望のもとに眺めるもので、雄大な瀬戸大橋のシルエットとも相まって、すばらしい景観を創りだしています。



岡山県倉敷市



倉敷美観地区
JR倉敷駅から徒歩約15分

水島コンビナート
瀬戸中央自動車道水島ICから車で20分

瀬戸大橋、下津井町並み保存地区
瀬戸中央自動車道児島ICから車で10分